

平成 28 年 2 月 24 日

報道関係者各位

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト
理事長 田中日出男
こころの東京革命協会会長 川淵三郎
レガシー共創協議会会長 間野義之

「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会設立の件

近年、全国のあちこちの学校で「いじめによる自殺」「学級崩壊」「小一プロブレム」といった誠に憂慮すべき現象が起こっております。また、中・高校生の電車の中での食事、化粧、路上での地べた座り、社会人になっても挨拶がきちんと出来ない等、マナーの乱れが多く指摘されております。また、食材偽装表示問題、杭打ちデータ改ざん問題等にみられるように企業のモラルも問われております。

我が国は、世界でも有数の経済的成長を成し遂げ、個人の生活も物質的に格段に豊かになりました。一方、心の面では、失ったものも多いのではないのでしょうか。自己中心、我欲といった精神がはびこっていることは否定できません。日本及び日本人が劣化してきたのではないかと憂慮します。

時あたかも東京オリンピック・パラリンピックに向けて、レガシー（遺産）をいかに次世代に継承するかが検討されております。2020 東京オリンピック・パラリンピックを僥倖として捉え、日本人が本来持っている「おもてなし」「もったいない」「思いやり」「分かち合い」の日本の心を再生しようではありませんか。そのために、公益社団法人マナーキッズプロジェクト（レガシー共創協議会のプロジェクト『「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ活動』をリーダーとして推進）及びこころの東京革命協会の 2 団体連携の「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会（ゆるやかなネットワーク）を設立し、国民運動として展開します。

2020 東京オリンピック・パラリンピックを契機に、おもてなしの心を再生させることにより、日本のソフトパワーを世界に発信します。

公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、幼稚園・保育園園児、小学校児童が、スポーツ等を通じ日本の伝統的な礼法を体験し、正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方を体得する活動と保護者に対する「家庭内の躰」の講話という啓蒙活動を行っています。

一方、こころの東京革命協会は、東京都とともに、東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツや体験を通じた子供の健全育成と保護者・大人への訴えを中心に、さまざまな活動を行っています。

「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会を設立し、礼法指導を含めたスポーツイベント、礼法指導を含めた音楽会及び日本の伝統的な礼法に関心のある各界著名人によるシンポジウ

ム等の啓蒙活動他を行い、「おもてなしの心を世界へ」の認知度を高めることにより、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、両運動への参画者を飛躍的に増大させる所存です。

次代を担う子供達が、体幹を鍛え、正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方等を身に付け、再度、世界の人々から尊敬される日が来ることを念じております。

当面、2団体でスタートしますが、志を同じくする公益財団、公益社団法人他と連携し、また、現在、経済産業省や関係省庁が検討を進めている、企業における優れたサービスを認証する「おもてなし規格認証(仮称)」などとも連携し、仲間を増やしていきたいと考えております。

なお、「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会活動内容及び会員は下記の通りです。

記

1 「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会活動内容

「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会の活動内容は次の通りです。

(1) 「おもてなしの心を世界へ」国民運動にするための企画、立案及び啓蒙活動

「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会主催のイベントを次の通り企画します。

開催時期：随時

開催場所：スポーツ施設、区民ホール他

開催内容：日本の伝統的な礼法を継承している各種団体と連携し、次のような各種イベントを開催する。

・礼法指導を含めたスポーツイベント

・礼法指導を含めた音楽会

・日本の伝統的な礼法に関心のある各界著名人によるシンポジウム

(2) 「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会会員の活動に対する官民あげでの支援体制(財政面、運営面他)の企画・立案及び推進

2 「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会会員

・公益社団法人マナーキッズプロジェクト(理事長：田中日出男)

レガシー共創協議会のプロジェクト『「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ活動』(メンバー：公益社団法人マナーキッズプロジェクト、墨田区、こころの東京革命協会など)をリーダーとして推進。

・こころの東京革命協会(名誉会長：舩添要一、会長：川淵三郎)

問合わせ先

公益社団法人マナーキッズ プロジェクト 理事長 田中日出男

電話：03-3339-6535 FAX：03-6426-1580 Email: office365@mannerkids.or.jp

URL: <http://www.mannerkids.or.jp/>

補足説明

1 レガシーについて

「オリンピック・レガシー」とは、「オリンピック招致・開催により築いた有形・無形のレガシー（遺産）をいかに次世代に継承するか」という意味であり、国際オリンピック委員会（IOC）によるレガシーは、スポーツ社会（文化・教育）、環境、都市、経済の5つの分野に整理されております。

1964年東京大会は、戦後復興・高度成長の象徴として、発展するわが国の存在を国際社会にアピールする場となりました。2020年東京大会は、成熟社会となったわが国が、課題解決や質的向上の成果をオリンピック・レガシーとして世界に提示することで、21世紀の国際社会に貢献することが期待されます。

2 レガシー共創協議会のプロジェクトについて

レガシー共創協議会（会長：早稲田大学スポーツ科学学術院教授 間野義之）は、株式会社三菱総合研究所が主宰するプラチナ社会研究会の分科会として、平成26年4月に設立され、平成27年8月現在、産官学221団体が、2020年オリンピック・パラリンピックのレガシーに関する情報発信や事業の具体化を推進しており、2014年8月、12月に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会レガシー」に関する提言を行いました。

少子高齢化・人口減少、健康・医療・介護、環境・エネルギー、安全・防災、人材育成・全員参画、産業振興・雇用創出など、国内共通の課題の解決に、オリンピック・パラリンピックを活用できるはずで

また、世界に7つの文明があるといわれるなか、一文明一国である日本は、「おもてなし」の言葉に表されるように相手を思いやり、相手に喜んでもらえることを良しとするのも特徴の一つだとすると、「和」や「おもてなし」などの精神文化を世界に発信できれば、最大のレガシーとなります。

3 「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ 墨田について

47都道府県の約14万人の園児、児童と接して感じることは、「スポーツと礼儀で子供は変わる＝礼儀正しさのDNAは残っている＝」ということです。正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方を知らないだけです。しかし、園児・児童が真に正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方を体得するためには、家庭、学校、地域の連携が不可欠としてヘルス&マナーコミュニティ®（公益社団法人マナーキッズプロジェクトの商標登録）を提言しております。

今般、ヘルス&マナーコミュニティ®がレガシー共創協議会のプロジェクトとして開催されることになったのを契機に、墨田区がモデル事業第一号として、「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ 墨田を実施します。（平成27年9月7日記者発表）

中学校区をモデルに幼稚園・保育園、小学校、中学校他においてマナーキッズ教室、マナーキッズ体幹遊び、「マナーキッズ」調べを実施し、また、「あいさつ運動」「クリーン作成（清掃活動）」「交通マナー向上」「資源回収作戦」「体力増強運動」を中心とした施策を展開し、マナー向上、ヘルス&フィットネス増進、コミュニティ活性化を通じてヘルス&マナーコミュニティ®が創生されることを確かめます。ヘルス&マナーコミュニティ®墨田の効果測定は、次のように実施します。

マナー … お辞儀・挨拶、歩き方・姿勢、言葉づかい、生活（早寝早起き朝ごはん）

ヘルス・フィットネス … 健康、体力、心理尺度、ストレス尺度、QOL 評価

コミュニティ活性 … 愛着度、地域イメージ、規範意識、自治意識、スポーツ参加

効果測定は、マナーの面から千葉敬愛短期大学明石要一学長に、ヘルス・フィットネスの面から筑波

大学大学院人間総合科学研究科大森肇教授に、コミュニティ活性の面から早稲田大学スポーツ科学学術院木村和彦教授に研究委託します。

幼少年期、青年期に獲得した心身の鍛錬効果は潜在的に残存し、中高年期における心身の健康維持・増進に貢献するかもしれないという仮説¹⁾があります。「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ[®]墨田に対する検証は、そうしたロングスパンの構想のもとで行われることが期待されます。

また、「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会の設立を受けて、墨田区に「おもてなしの心を世界へ」ヘルス&マナーコミュニティ墨田協議会を設立し、資金面、ボランティア面で支援体制を構築します。

地域参加型のマナー向上に関するさまざまな地域活動を実施していくにあたり、参加率を上げるインセンティブとして、参加に対するポイント付与を検討します。

ポイント制度の設計にあたっては、事業目的に賛同する区内企業に広く協力を求め、区のみならず、区民、事業者と一体となって地域活性化につながる制度につくり上げていきます。28年度予算として5,020千円を計上します。

墨田区で成功例を作り、全国の市区町村に発信します。

なお、岡山県備前市が第2号モデルに名乗りをあげて頂きました。また東京都杉並区立小中学校においても活動を開始しました。

1) 大森肇 ほか：神経・筋でのトレーニング効果は記憶される-再トレーニングに対する筋力増加応答-

体力科学，49：385-392，2000。

4 公益社団法人マナーキッズ プロジェクトについて

公益社団法人マナーキッズ[®]プロジェクトは、幼稚園・保育園、小学校児童に対し、スポーツや文化活動を通じ、日本の伝統的な礼法を体験し、<体・徳・知>バランスのよい子供を育てる活動を行っております。

既に47都道府県において、約14万人の小学校児童他が参加しております。(平成17年4月公益財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクト、平成19年6月NPO法人マナーキッズプロジェクト、平成22年2月認定NPO法人マナーキッズプロジェクトの通算。平成26年10月公益社団法人マナーキッズ[®]プロジェクトへ移行)

また、マナーキッズショートテニス教室を媒介とした体育・道徳融合授業は、34都道府県326小学校、幼稚園・保育園において実施しております。

マナーキッズ教室に加え、早稲田大学スポーツ科学学術院「正しい姿勢研究班」及び根本正雄根本わくわく体操教室代表の協力を得て、体育・保健体育の全スポーツ及び日常の学校、園生活を通して、正しい姿勢を体得するマナーキッズ体幹遊び(手引き・36事例集参照)を実施しております。引用：東京都教職員研修センター「子供の体幹を鍛える～正しい姿勢のもたらす教育的効果の検証～」

さらに、明石要一千葉敬愛短期大学学長、鈴木万亀子小笠原流礼法総師範の監修により、幼児期、小学校期に身につけるべき、言葉、お辞儀・挨拶、歩き方・姿勢、生活、社会規範を明確にし、それに向かって、本人、保護者、教師が一体になって取組み、次代を担う子供たちが将来、世界各国の人々から尊敬される日本人になる一助にするため、「マナーキッズ」調べ(帳票・記入の手引き参照)を

実施しております。

なお、全国で初めて予算化した品川区の浜川小学校から「規律正しい児童は学力も大きく向上する」-「マナーキッズ」を「市民科授業」に取り入れて - という事例報告がされております。

今までに 10 年間で約 14 万人の園児・児童が参加しましたが、3 才以上の園児、小学校児童は約 950 万人いることを考えると微々たる数字です。

2020 年を目指して年間 100 万人以上の参加者を達成したいと考えています。そのためには、ヘルス&マナーコミュニティ活動が第 3、第 4・・・と続く必要がありますが、教育界の保守的、閉鎖的体質、縦割り行政等から、達成するためのハードルは非常に高いと思っております。

「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会を設立し、各種啓蒙活動のイベントを開催することにより、「おもてなしの心を世界へ」の関心が高まり、全国各地の保護者、シニア等から、次世代を担う子供達のために、マナーキッズ教室開催の要請が湧き上がるか否かが目標達成の鍵だと思っております。

ヘルス&マナーコミュニティ活動については、行政が音頭をとり、次の各団体に協力を呼びかけることを期待しております。

法人会、自治会長会、民生児童委員協議会、社会福祉協議会 老人会、交通安全協会、消防団、保護司会、更生保護会 公民館、PTA、子ども会、スポーツ少年団、児童館、学童 保育、学校評議員会、商店会、ロータリー、ライオンズ、青年会議所、企業・企業OB、駐在所、各スポーツ団体、同窓会他 地元の法人、個人が子供の健全育成のために資金を出し、汗を流すことを期待します。

また、平成 17 年 4 月以来の参加者約 14 万人の内、マナーキッズテニス教室が約 83%、マナーキッズサッカー教室、マナーキッズラグビー教室、マナーキッズ野球教室他が約 10%、マナーキッズ体幹遊びが約 1%、マナーキッズ文化教室が約 6%ですが、マナーキッズサッカー教室、マナーキッズラグビー教室、マナーキッズ野球教室、マナーキッズバスケット教室、マナーキッズ体操教室、マナーキッズ相撲教室、マナーキッズ体幹遊び、マナーキッズ音楽教室、マナーキッズ習字教室、マナーキッズ朗読教室、マナーキッズ茶道教室等の比率を高めたいと考えております。

5 マナーキッズ教室と「おもてなしの心を世界へ」の関係について

「おもてなしの心」の第一歩は、初対面で会った際の、正しい姿勢、お辞儀・挨拶と笑顔であると考えており、日本の伝統的な正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方を、スポーツ等を通じて、園児、児童が体得するマナーキッズ教室を開催しております。

正しい姿勢を保つためには体幹を鍛える必要あることからマナーキッズ体幹遊びを展開しております。

また、園児、児童が正しい姿勢、お辞儀・挨拶の仕方を真に身につけるためには、保護者の理解、指導が必要ということで「マナーキッズ」調べを実施しております。

「おもてなしの心を世界へ」広げよう スポーツと礼儀で子供は変わる 特集号を保護者等に配布し、啓蒙活動を行っております。

6 こころの東京革命協会について

東京都とこころの東京革命協会は、大人が変われば子供も変わる。こころの東京革命を推進しています。

「こころの東京革命」とは、親と大人が責任を持ち、次代を担う子供の正義感や倫理観、思いやりの心を育み、自らが手本となりながら、人が生きていく上で当然の心得を伝えていこうという取組です。

私たち大人は、未来を支えていく子供に、どのような社会にあっても守るべき基本的ルールがあること、社会の一員として役割と責任を果たしていくべくことを自らの行動を通して伝えていかななくてはなりません。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、「おもてなしのこころ」や「規範意識」の醸成など、これまで以上に「こころの東京革命」の普及啓発を進めています。

川淵三郎（日本サッカー協会最高顧問）会長の下、東京オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツや体験を通じた子供の健全育成と保護者・大人の訴えを中心に、さまざまな活動を行っています。

また、自らの活動を通じ「こころの東京革命」を実践する青少年育成団体等（約140団体）が正会員として加盟し、共に活動しています。

7 経済産業省や関係省庁が検討を進めている「おもてなし規格認証(仮称)」について

サービス産業は今やGDPの3/4を占め、我が国経済全体に与える影響が高まってきております。とりわけ、新三本の矢の一つ「戦後最大のGDP600兆円」の達成には、サービス産業の生産性向上と稼げるサービス産業の創出が必要不可欠です。

しかしながら、サービス産業はその提供する「サービス」について、目に見えない「無形性」や生産と消費の「同時性」といった特性を有することから、必ずしも質に見合った付加価値がとれておらず、これがサービス産業の生産性の停滞に繋がっているといった指摘があります。

このため、サービス産業による付加価値創出を促し、もって日本全体のサービス産業の底上げ・生産性向上を図るためには、質の高いサービスがそれにふさわしい評価がなされることが重要です。

こうしたことから、「日本再興戦略2015（平成27年6月30日閣議決定）」及び「サービス産業チャレンジプログラム（平成27年4月15日日本経済再生本部決定）」において、「サービス品質を評価する新たな仕組み」を検討する旨が盛り込まれたところであり、当該仕組みとして「おもてなし規格認証（仮称）」を経済産業省や関係省庁と検討しているところです。

以上